町民・職員いっしょにチャレンジ

協働のまちづくりマスター養成講座

12 月 17 日（火）の夜、「協働のまちづくりマスター養成講座」の第 4 回を開催しました。参加者は町民と職員を合わせた受講生や事務局スタッフも含め、全員で 25 名でした。

この日は、犬山市と津島市から 2 人のスペシャルゲストをお招きしてトーク＆セッション。お話を聞いたあと、グループごとに「刺さったこと！武豊で活かせそうなこと」と「もう少し、つっこんで聞いてみたいこと」を話し合い、発表共有。そして最後に「聞いてみたいこと」に対して 1 つ 1 つ、ゲストに答えていただきながら、トークセッションを行いました。

12 月 17 日(火)　19:00～21:30　思いやりセンターにて

中級編①「ゲストトーク＆セッション」 4

1 ゲストトーク

①吉野孝博さん（タカさん）　犬山マルシェ実行委員、いぬやま倶楽部

犬山マルシェ

犬山市には「フューチャーセッション@犬山」という集まりがあります。自分のやりたいことを持った人が集まって、対話から新しいアイデアやヒントをもらったり、自分のやりたいことの背中を押してもらったりして行動につなげていこうという場で、今年が 3 年目。1 年目の第 1 回でのつながりをきっかけに出会った松本という人と意気投合して、1 年後の秋に「犬山マルシェ」を開催。今年の夏の夜に第 2 回、先月第 3 回を開催しました。

マルシェをやろうとしたきっかけは、おいしい野菜が食べたいから。こだわってつくられたおいしい野菜は地元ではなかなか買えない。自分だけでなく、市民みんなが地元の農家さんとつながって、直接農家さんから買う文化を根付かせるというのが最大の野望で、そうすれば、クオリティの高い農家さんが集まってきて、自分も楽に地元でおいしい野菜が買えると思ったんです。

第 3 回の来場者は 3 千人くらい。地場野菜の販売を核に、テントやキッチンカーの飲食販売、ハンドメイドクラフトなど、80 店舗の出店。クラフト・飲食は半分が市内の業者、半分は、クオリティの高い人を呼ぶ。隣接市町まで含めると 7 割くらいがご近所、という構成にこだわっています。音楽とアートのライブステージパフォーマンスは、生で音楽を聴く機会が減ってきているというのと、買物だけでなく場の雰囲気を楽しんで一日過ごしてもらえるようなイベントにしたいという思いで気合を入れてやっています。

会場で野菜を食べていただくことが最大の宣伝になると思って、今回は、出店農家さんの野菜を使って、フード店舗さんに新規メニューを開発してもらいました。マルシェのつながりの中から、市内のこだわり業者さんや老舗業者さんと市内の材料を私達でかけ合わせてプロデュースした商品の開発も進めています。

いぬやま倶楽部「今井地区に人が来てほしい」

いぬやま倶楽部は、フューチャーセッションから生まれた民間有志の団体で、組織は階層なしのフラット。ここの中で、3 つのトライアルプロジェクトが生まれてきていて、自分が担当しているプロジェクトは「今井地区に人が来てほしい」というものです。

今井地区は、里山風景が何よりも魅力で、水がおいしいので農産物もとてもおいしい。濃密な地域コミュニティも売りです。課題は高齢化、過疎化。プロジェクトでは、7 世代先の里山環境をつくる、つまり、里山環境が崩れ始めた 7 世代前、150 年前に戻していくことを目指します。

里山は人の手が入ることで保全されます。里山に興味がない人がたくさん来ても維持されない。単に「里山いいよね」と言ってるだけでもダメで、事業として成り立たせるようなコミュニティが必要。そのためには「半開きのコミュニティを」と思っています。昔ながらの人のつながりに入ってきてくれる人に、最初は遊びに来てもらい、だんだんファンになり、リピーターになって住民になる、という流れをつくれるような拠点がつくりたいと思って企画を練っています。

②植木美千代さん（ちゃっぴー）　津島市役所 市民協働課

「誰もが気軽に集い交流できる地域の居場所を歩いて行ける範囲に設置し、顔と顔の見える関係を取り戻そう」ということで、平成28 年から 30 年度に総務省の地方創生推進交付金を活用して取り組みをさせていただきました。

縁側カフェ「えん」

平成29年の3月末、「平成29 年度に空き家を改修して縁側カフェを設置して運営しなきゃいけないんだよー」と課長から告げられ、どこで誰がどのようにやるか決まっていない状況の中、事業を進めることになりました。

誰かにやらせることは絶対にしたくない！と思い、カフェをやってみたい人で地域のことも考えてくれる人がいないか考え、手当たり次第に相談しまくったところ、PTA 仲間のなおちゃんが「やってみたい！」と言ってくれました。

そして、なおちゃんが１人で地域から浮いてしまわないよう小学校区の人達に声をかけ、どこでどんなことを？を一緒に考えるところからスタート。場所が決まり、どう改装したらいいか設計士さんも一緒にみんなで考え、平成30年3月に縁側カフェ「えん」が誕生しました。えんは、喫茶部門以外にスペース貸しや物販などの公益部門を行なっています。

神島田地区「安託寺」「認知症カフェ・ひとやすみカフェ」

平成 30 年度は別の神島田地区を対象にしました。この年は「場をつくらなければいけない」という制約がなかったので、地域のお宝探しからはじめました。小学校２年生の子も来てくれて、イベントの企画を考える中で、「せっかくだから話しているだけじゃなくやってみよまい」と開催したのが、安託寺でやった「お寺で遊ぼう！神島田だよ全員集合！」です。子ども達が本堂を走り回ったり、フリマをしたり…。包括さんなど大人は見守る程度で、小学生の遊び隊隊長が仕切ってくれて、全部お任せでやってくれました。

平成 30 年度にトップダウンでやってきた地方創生の事業が終了。この時、コミュニティの会長が「俺ら、やっぱり場がつくりたい」と言いました。そこで、100%補助を探しまくって見つかったのが一般社団法人地域活性化センターの補助金でした。

３ 階建ての空き店舗を買った兄妹が、「１階を地域の人達が集まる場にしよう」と解放してくれることになり、そこで必要なルールを地域のみんなで考えました。認知症の人もそうでない人もごちゃまぜで来れるようにと、毎月第１火曜の１時半からは「認知症カフェ」で、それ以外の火曜日は「ひとやすみカフェ」になっています。

安託寺で、イベントだけじゃいかんよねとやったのが平日に開催したお茶会。非日常から日常につなげるということをやっています。

居場所づくりで大切にしてきたこと

- 笑顔指数が上がることでなければやるべきでないと思います。
- 地域に仲間と思える顔が３人以上浮かぶこと。仲間の協力者となる人の顔が浮かぶこと。浮かばないなら、私はまだまだ足りないなと、地域に飛び出していって味方を付けるようにしています。
- 相乗効果でより HAPPY が生まれる「HAPPY-HAPPY」の関係が築けること。これが揃ったら Go サイン。動き出すしかない！
- 「無理だよね」と否定しない、ないものねだりはしない。楽しい、おもしろいを見つけて、そこから生まれるものがないかを考えます。
- 子ども、赤ちゃん、お年寄り、障がい者…１人１人の役割を大切にしていくことにしています。

2 グループセッション「深めよう！グループで」～発表＆共有～質疑応答「語り合おう！ゲストと」

Q:行政と民間。どこまでつながってどこからお任せしている？

ちゃっぴー：私達の支援が１年限りだと最初にはっきり言った上で、やるのかやらないのかと。その後、伴走支援はしていきます。現場に行って一緒にお茶を飲んだりしながら相談に乗ってます。

Q:やりたい人、仲間をどう集めた？

たかさん：１回やって実績をつくると人が自然に集まってくる。とにかく最初は考えるよりやってみることが大事かなと思います。

ちゃっぴー：普段から地域に出ていろんな人の話を聴いていると、自然とつながる。みんなに「みんな広報を見ないから、口コミで声かけてね」と言うとちゃんと声をかけてくれます。

Q:上司は最初の壁。どう説得した？

ちゃっぴー：うちの上司は「やりたい」と言えば「いいよ」と言ってくれますが（笑）。地域に仲間を多く作っておいて、「住民のためにやるのに何か問題が？」というのをしっかりつくっておくのは大事！」

Q:お金の仕組みは？

たかさん：イベントは、出店料をいただいていて、内容によって値段を変えてます。キッチンカーは 6000 円。農家は 500 円。音楽ステージにお金がかかるので、企業を回ってお金を集めています。基本的に儲かるものではないので、そこでできたつながりで次の儲かる仕組みをつくるというスキームです。

ちゃっぴー：「えん」は毎日 200 人を超えていて、スタッフの給与も出ています。お寺や個人宅でも、イベントをやる時に、お汁粉やカレーを食べてもらって「協力金」をいただいたりしてお金を生み出す仕組みは作っています。最初の１年は、収支を表にしてあげて、これだけ収益出たよね、次の頭金ができるよね、と。

Q:今井地区の方はどう思っている？

たかさん：人が減ってどうにかしたいけど、どこの馬の骨ともわからない人に来てもらったら困る。だから「半開きのコミュニティ」なんです。内部の人から仲良くなっていくしかない。地区で活動している若いお母さんとか、コミュニティの会長さんは仲良しになって、一緒にやるぞ！というところまで来ています。近いうちに地域の人に、こういうことをやりたいんだという話をしていこうと思っています。

ひとことアンケートより

お二人の事業をやろうとする姿勢、気持ち、参考になりました／志のある人、やりたいことのある人の発掘が足がかりの第一歩であり、その前段階に普段からの地域とのコミュニケーションがあると感じた／まずやってみる。実績ができると人が集まってくる。仲良くなってからがスタート／講座を受けるにつれてまちづくりに対する気持ちが高まってくる　ほか

発行＆連絡先：

武豊町役場 企画部 企画政策課

〒470-2392　武豊町字長尾山２番地

TEL：0569-72-1111

FAX：0569-72-1115

E-mail：kikaku@town.taketoyo.lg.jp